

資料

愛媛県における食虫類の生息記録

山本貴仁<sup>1</sup>・宮本大右<sup>2</sup>・山本栄治<sup>3</sup>・西原博之<sup>4</sup>

List of Insectivores in Ehime Prefecture, Shikoku Japan.  
Takahito Yamamoto, Taisuke Miyamoto, Eiji Yamamoto, Hiroyuki Nishihara

We gathered the previous literatures and specimen records about the insectivores in Ehime Prefecture. As a result, six species (*Sorex shinto*, *Crocidura dsinezumi*, *Dymecoden pilirostris*, *Urotrichus talpoides*, *Mogera wogura*, *Mogera imaizumii*) and one fossil species (*Chimarrogale platycephala*) were recognized.

はじめに

愛媛県における食虫類の生息記録は、分類学的研究のための採集報告、開発に伴う環境調査報告、特定地域の動物相に関する調査報告などによるものがある。今回、過去に発表された文献と県内に収蔵されている標本を確認し、2004年までの県内の食虫類の採集記録を整理することを試みた。なお、今回確認した文献以外の文献や生息地に関する情報があればご教示いただきたい。

調査方法

調査は過去に発表された文献と県内に収蔵されている標本を調査の対象とした。文献のうち生息地の記載について「四国」とのみ記載されたものは除き、「愛媛県」及び県内の市町村名、大字名、山名、山域の名称、河川の名称が記載されているものを採用した。天狗高原など隣接する県を含む地名表記の場合も参考として採用した。なお、愛媛県の食虫類に関する記載のある文献を全て網羅する点から、引用による記載も含めている。

標本は愛媛県総合科学博物館（EPSM）と愛媛県立博物館および著者が所蔵している標本を対象とした。

記載内容は愛媛県内における生息状況の概要、文献による確認では採集地名、著者、発行年とした。採集地名は文献の記載に従ったが、山名や大字名のみの場合、市町村名を加えて記した。ただし、河川名のみの場合や複数の市町村を含む地域で、調査地が特定できないものについては文献に表記のとおりとした。また、旧市町村

名の場合は、現在の市町村名を付記した。標本による確認は採集地名、標本番号、雌雄、標本を記録した。分類、学名は阿部（1998）に従った。

記 載

トガリネズミ

*Sorex shinto* Thomas, 1905

県東部の標高800m以上の山地から記録がある。採集された環境は、瓶ヶ森のササ原（2 2）（宮尾ほか、1966）、石鎚山の標高1800mから1900mのシコクシラベ林（5頭）、同標高のササ原（1頭）、標高1600mのブナ林（1頭）（Abe et al., 1970）などである。本種は高山の森林や低木林などの落葉層や腐植層に生息し、昆虫類、クモ類、ジムカデ類などを捕食するとされる（阿部、1994）。

なお、四国に生息するものは亜種シコクトガリネズミ *Sorex caecutiens shikokensis* とされ、Abe（1967）により新居浜市下兜山（標高900m）で1959年4月16日に採集された雄の成体にもとづいて記載された。

文 献

- 伊予三島市佐々連尾山（Abe, 1967）（現、四国中央市）
- 新居浜市下兜山（Abe, 1967）
- 石鎚山（Abe et al., 1970；森川, 1979；森川, 1960）
- 成就（鶴崎・佐藤・小松, 1977）（現、西条市）
- 西条市瓶ヶ森（宮尾ほか, 1966）

標 本

- 面河村土小屋 EPSM-M-913, 本剥製。
- 石鎚山 EPSM-M-914, 液浸標本。

1 愛媛県総合科学博物館 学芸課 自然研究科  
 2 〒798 - 0027 宇和島市柿原349 ネイチャー企画  
 3 〒791 - 3511 喜多郡内子町吉野川1127 山本森林生物研究所  
 4 〒790 - 0911 松山市桑原6丁目2 - 11

## カワネズミ

*Chimarrogale platycephala* (Temminck, 1842)

現在のところ化石からの記録のみであり、採集の記録はない。黒田(1940)によると、折居氏からの伝聞として四国に分布すると記録されている。しかし、その後の生息記録がないことから、絶滅または、生息記録そのものを見直すべきとの意見もある(阿部, 1998)。阿部(2003)は、久万高原町面河川源流と番匠谷にてカワネズミの捕獲調査を行ったが生息は確認できなかった。

化石は大洲市肱川町敷水のカラ岩谷遺跡より発見され(長谷川, 1996)、更新世後期のものとされている(Shikama & Hasegawa 1962)。この化石は現在、大洲市風の博物館で保管されている。

## ニホンジネズミ

*Crocidura dsinezumi* (Temminck, 1842)

県内の海岸付近から山地にかけて広く分布するが島嶼部での採集記録はない。採集された環境はブナ林、河畔林、水田、草地、雑木林(山本・土居, 2000)、河川敷の草地(財団法人リバーフロント整備センター, 1999)、低山の二次林(新居浜市大生院産標本 EPSM-M-910)、海岸の埋立地(大洲市長浜拓海産標本 EPSM-M-772, 773)と多岐にわたり、家屋内で採集された例もある(山本・土居, 2000)。また、地上性の昆虫を採集するピットホールトラップでもしばしば採集されることがある。小田町では1980年3月30日に地面に倒していたクリの木にあったアオゲラの古巣で2頭の幼獣が確認された例がある(山本, 1982)。また、川之江市川滝町下山(現, 四国中央市)では10月に幼獣1頭が採集されている(EPSM-M-909)。小田町吉野川(山本, 2004a)、小田町小田深山小屋山(山本・土居, 2000)では2頭が同時に採集された例がある。松山市のレッドデータブックでは準絶滅危惧種とされているが(まつやま自然環境調査会, 2002)、県内に広く分布し、生息する環境も多岐にわたることから、評価を再考する必要がある。

### 文献

- 愛媛県(黒田, 1940)  
 石鎚山(森川, 1979)  
 今治西部丘陵(今治 NPO サポートセンター, 2003)  
 高縄山(Abe, 1967)  
 松山市(今泉, 1960; Abe, 1967, まつやま自然環境調査会, 2002)  
 面河村面河溪(Abe et al., 1970)(現, 久万高原町)  
 小田町(山本, 1986, 山本・土居, 2000)(現, 内子町)  
 小田町吉野川(山本, 2004a)(現, 内子町)  
 小田町小田深山小屋山(山本・土居, 2000)(現, 内子町)  
 肱川(財団法人リバーフロント整備センター, 1999)

### 標本

- 愛媛県 EPSM-M-783, 毛皮標本。  
 川之江市川滝町下山 EPSM-M-909, 液浸標本。(現, 四国中央市)  
 新居浜市大永山 EPSM-M-908, 本剥製。  
 新居浜市大生院 EPSM-M-910, 液浸標本。  
 小田町 EPSM-M-732, EPSM-M-774, 毛皮標本。(現, 内子町)  
 大洲市長浜拓海 EPSM-M-772, EPSM-M-773, 毛皮標本。(現, 大洲市)  
 西海町高茂岬 EPSM-M-860, 頭骨標本。(現, 愛南町)  
 肱川町見の越 ネイチャー企画所蔵 Nak-00392, 液浸標本。(現, 大洲市)  
 広見町中野川 ネイチャー企画所蔵 Nak-00108, 冷凍標本。(現, 鬼北町)  
 津島町高田 ネイチャー企画所蔵 Nak-00374, 冷凍標本。  
 津島町岩松 ネイチャー企画所蔵 Nak-00375, 冷凍標本。

## ヒメヒメズ

*Dymecoden pilirostris* True, 1886

県東部の標高800m以上の山地から記録がある。採集された環境は、石鎚山では標高1800mから1900mのシコクシラベ林(6頭)、同じ標高のササ原(3頭)、標高1600mのブナ林(7頭)であった(Abe et al., 1970)。雌雄によるサイズの差は認められていないが、四国の個体は本州の個体に比べてやや大型であるとされる(Abe, 1967)。

### 文献

- 伊予三島市佐々連尾山(Abe, 1967)(現, 四国中央市)  
 新居浜市下兜山(Abe, 1967)  
 石鎚山(Abe, 1967; Abe et al., 1970; 森川, 1979; 森川, 1960)  
 面河村番匠谷(森川・石川・芝・松井, 2000)(現, 久万高原町)  
 西条市笹ヶ峰(豊永・浜田, 1989)

## ヒメズ

*Urotrichus talpoides* Temminck, 1841

県内の平野部から山地まで広く生息するが、島嶼部からの採集記録はない。石鎚山で行われた調査では、標高1600mのブナ林で1頭、標高1100mのツガ林・広葉樹林で4頭、標高700mのモミ・ツガ・広葉樹林で3頭が採集されているが、標高1800mから1900mの調査地点では採集されていない(Abe et al., 1970)。採集された環境は、マツ林、マツ・ヒノキ・スギの混合林(金子, 1983)、スギ林(宮尾ほか, 1966)、ウラジロモミ林、ブ

ナ林(鶴崎ほか, 1977), ヒノキ植林(白附, 1976) などである。旧小田町では「くちぼそ」と呼ばれている(山本・土居, 2000)。

#### 文献

愛媛県(黒田, 1940)  
伊予三島市佐々連尾山(Abe, 1967)(現, 四国中央市)  
土居町北野高曾根(金子, 1983)(現, 四国中央市)  
新居浜市下兜山(Abe, 1967)  
西条市西之川(宮尾ほか, 1966)  
小松町成就(鶴崎・佐藤・小松, 1977; 白附, 1976)  
(現, 西条市)  
石鎚山(Abe et al., 1970; 森川, 1979; 森川, 1960)  
今治市長沢(金子, 1983)  
今治市孫兵衛作細神社(金子, 1992)  
今治市延喜宅間(金子, 1992)  
松山市(まつやま自然環境調査会, 2002)  
重信川(財団法人リバーフロント整備センター, 1997)  
面河村土小屋(鶴崎・佐藤・小松, 1977)(現, 久万高原町)  
面河村面河溪(Abe et al., 1970; Endo, 1996)(現, 久万高原町)  
皿ヶ峰(Thomas, 1905; Abe, 1967)  
小田町(山本, 1986, 山本・土居, 2000)(現, 内子町)  
小田町真弓峠(森川・芝, 1968)(現, 内子町)  
小田町上川地区(森川・芝, 1968)(現, 内子町)  
小田町獅子越峠(山本・土居, 2000)(現, 内子町)  
小田町小田深山小屋山(山本・土居, 2000)(現, 内子町)  
大川嶺生草谷(森川, 1967; 森川・芝, 1968)  
天狗高原(森川, 1966, 山本・土居, 2000)  
滑床(環境庁自然保護局, 2000)  
標本  
愛媛県 EPSM-M-757, 本剥製  
伊予三島市富郷町中尾 EPSM-M-775, 毛皮標本。  
(現, 四国中央市)  
新居浜市大生院 EPSM-M-743, 毛皮標本。  
西条市瓶ヶ森子持権現付近 EPSM-M-730, 液浸標本。  
松山市湯山杉立 EPSM-M-409, 乾燥標本。  
松山市米野町 EPSM-M-742, 毛皮標本。  
小田町 EPSM-M-737, EPSM-M-740, EPSM-M-741, 毛皮標本。EPSM-M-912, 頭骨標本。(現, 内子町)  
小田町小田深山笠取山 EPSM-M-744, 毛皮標本。  
(現, 内子町)  
大洲市北只 ネイチャー企画所蔵 Nak-00093, 冷凍標本。  
松野町石が内 ネイチャー企画所蔵 Nak-00072, 骨格標本。Nak-00073, 冷凍標本。

宇和島市御幸町 ネイチャー企画所蔵 Nak-00386, 冷凍標本。

#### コウベモグラ

*Mogera wogura* (Temminck, 1842)

県下の平野部から山地に広く生息する。内子町小田深山小屋山の標高1150m付近で採集された例が最も標高の高い採集記録である(山本・土居, 2000)。島嶼部では芸予諸島の大島で採集されているが(川口ほか, 1999)大三島, 伯方島, 岡村島, 弓削島, 佐島, 岩城島, 生名島のほか, 忽那諸島の睦月島では生息調査が行われているものの生息は確認されていない(金子, 1974; 川口ほか, 1999; 川口・法専, 2003; 川口, 2003)。また, 忽那諸島の中島ではモグラ類の坑道が確認されており, 生息の可能性はあるが捕獲には至っていない(川口, 2003)。

採集された環境はブナ林(山本・土居, 2000), モミ・ツガ・広葉樹林(Abe et al., 1970), 河川敷(財団法人リバーフロント整備センター, 1999)などである。

繁殖に関しては内子町吉野川で, 2002年4月20日に幼獣1頭が確認された例がある(山本, 2004d)。旧小田町では「おごろ」と呼ばれる(山本・土居, 2000)。

#### 文献

大島(川口ほか, 1999)(今治市)  
面河村面河溪(Abe et al., 1970)(現, 久万高原町)  
松山(今泉, 1960, まつやま自然環境調査会, 2002)  
小田町(今泉, 1960, 山本, 1986; 山本・土居, 2000; 山本, 2004b)(現, 内子町)  
小田町吉野川(山本, 2004c; 山本, 2004d)(現, 内子町)  
小田町小田深山小屋山(山本・土居, 2000)(現, 内子町)  
肱川(財団法人リバーフロント整備センター, 1999)  
滑床(環境庁自然保護局, 2000)  
内海村(愛媛県高等学校教育研究会理科部会生物部門編, 2004)(現, 愛南町)  
標本  
愛媛県 EPSM-M-790, 仮剥製。  
新居浜市大生院 EPSM-M-791, 仮剥製。  
西条市飯岡 EPSM-M-792, 仮剥製。  
重信町牛淵 EPSM-M-911, 頭骨標本。(現, 東温市)  
松山市鷹ノ子町 愛媛県立博物館標本。  
小田町 EPSM-M-758, 本剥製。EPSM-M-787, EPSM-M-789, EPSM-M-793, EPSM-M-794, 仮剥製。(現, 内子町)  
小田町小田深山小屋山 EPSM-M-788, 毛皮標本。(現, 内子町)  
中山町下野中 EPSM-M-796, 仮剥製。

砥部町上原町 EPSM-M-797 , EPSM-M-795 , 毛皮標本 .  
 宇和町明石 西原所蔵 , 本剥製 . (現, 西予市)  
 宇和町明間 西原所蔵 , 本剥製 . アルビノ個体 .  
 (現, 西予市)  
 野村町蔵良 西原所蔵 , 本剥製 . (現, 西予市)  
 宇和島市柿原 ネイチャー企画所蔵 Nak-00388 ,  
 Nak-00389 , 毛皮・頭骨標本 . Nak-00390 , Nak-00391 ,  
 液浸標本 .

## アズマモグラ

*Mogera imaizumii* (Kuroda, 1957)

面河村面河溪谷の関門(標高700m, モミ・ツガ・広葉樹林)で採集された1頭が, 愛媛県唯一の記録である(Abe et al., 1970). 四国では石鎚山系のほか, 徳島県剣山, 高越山, 大滝山などにコウベモグラの分布域に囲まれた孤立個体群がある(阿部, 1998).

### 文献

面河村面河溪(Abe et al., 1970)(現, 久万高原町)

## おわりに

文献及び標本調査により, トガリネズミ, ニホンジネズミ, ヒメヒミズ, ヒミズ, コウベモグラ, アズマモグラの6種が愛媛県に生息していることが確認された。カワネズミについては, 第四紀の化石は発見されているものの, 現生の標本は得られておらず, 生息しているかどうかは疑わしい。アズマモグラについても採集されたのは1個体のみであり, 分布など詳しい県内の生息状況は不明である。トガリネズミ, ヒメヒミズ, アズマモグラは分布域が孤立しており, 今後の保護対策のためにも早急に生息状況を把握しておく必要がある。特に愛媛県南部の鬼ヶ城山系, 篠山など標高1000mの山域ではこれまで小型哺乳類の調査がほとんど行われていないため今後の調査が望まれる。

## 謝辞

愛媛県立博物館の小谷正和氏には標本調査に際し協力いただいた。また, 川口 敏氏には本報告をまとめるにあたり貴重なご助言をいただいた。記してここに厚くお礼申し上げます。

## 引用文献

Abe, H (1967): Classification and biology of Japanese Insectivora (Mammalia) I. Studies on variation and classification. J. Fac. Agr. Hokkaido Univ, 55, pp .191 - 265 .

Abe, H., T. Kobayashi, K. Maeda & T. Miyao (1970): Faunal survey of the Mt. Ishizuchi area, JIBP main area - II .Results of the small mammal survey on Mt. Ishizuchi area. Ann. Rep. JIBP/CT-S, pp .7 - 14 .

阿部 永(1998): モグラ科の分類・形態・食虫類の自然史, 比婆科学教育振興会, 庄原市. pp 25 - 53 .

阿部 永(2003): カワネズミの捕獲, 生息環境および活動. 哺乳類科学, 43 ( 1 ). pp 51 - 65 .

愛媛県高等学校教育研究会理科部会生物部門編(2004): 愛媛の生物誌 愛媛の哺乳類 口絵 .

平成16年度日本生物教育会第59回全国大会愛媛大会大会記念誌 .

Endo, H (1996): CATAROGUE OF INSECTIVORA SPECIMENS. NATIONAL SCIENCE MUSEUM, TOKIYO. 174pp .

長谷川善和(1966): 日本の第四紀小型哺乳動物化石相について. Fossils, 11 . pp 33 - 40 .

今泉吉典(1960): 原色日本哺乳類図鑑. 保育社, 大阪. 196p .

川口 敏・北恵利子・野口和恵(1999): 芸予諸島の小哺乳類( 1 ). 香川生物, 26 . pp .17 - 20 .

川口 敏(2003): 瀬戸内海島嶼におけるアカネズミとコウベモグラの分布. 哺乳類科学, 43 ( 2 ), pp .121 - 126 .

川口 敏・法専 真(2003): 芸予諸島の小哺乳類( 2 ). 香川生物, 30 . pp .1 - 3 .

金子之史(1983): 愛媛県東予地域および島根県温泉津の山麓部農耕地におけるスミスネズミの採集. 香川生物, 11, pp .1 - 5 .

金子之史(1992): 四国における野ネズミ3種の地形的分布. 日本生物地理学会会報, 第47巻第16号, pp .127 - 141 .

環境庁自然保護局(2000): 平成11年度生態系多様性地域調査報告書 滑床地区. 131p .

黒田長禮(1940): 原色日本哺乳類図説. 三省堂. 東京, 311p .

まつやま自然環境調査会(2002): 松山市産哺乳類目録. 松山市野生動物目録2002 松山市環境部. pp .3 - 5 .

まつやま自然環境調査会(2002): レッドデータブック まつやま2002. 松山市環境部. pp 22 - 29 .

宮尾嶽雄・赤羽啓栄・毛利孝之・山本 功(1966): 対馬・壱岐・北九州および四国における小哺乳類の採集結果. 哺乳動雑, 3, pp 30 - 39 .

森川国康(1960): ほ乳類. 石鎚山系の自然と人文. 愛媛新聞社. 松山. pp 58 - 60 .

森川国康(1966): 四国カルストの動物. 四国カルスト天狗高原周辺の学術調査報告書. pp 23 - 30 .

- 森川国康・芝 実 (1968): 小田深山の動物相．小田町の自然と人文，小田町．pp 63 - 66 ．
- 森川国康 (1979): 石鎚・面河の哺乳類，鳥類および爬虫類．石鎚山・面河地区自然環境保全調査報告書．財団法人日本自然保護協会．pp 87 - 90 ．
- 森川国康・石川和男・芝 実・松井宏光 (2000): 定点観測報告．21世紀に残したい日本の自然100選，財団法人森林文化協会．pp 44 - 54 ．
- Shikama & Hasegawa (1962): Discovery of the fossil giant salamander (Megalobatrachus) in Japan. Trans. Proc. Palaeont. Soc. Jpn, N. S. (45) pp 197 - 200 ．
- 白附憲之 (1976): 小型哺乳類の生息実習 1976年夏の石鎚山成就．武庫川教育 (9) pp 25 - 28 ．
- 鶴崎展巨・佐藤正典・小松 洋 (1977): 石鎚山動物生態学野外実習報告．広島大学生物学会誌．43号．pp 63 - 65 ．
- Thomas, O. F. R. S. (1905) The Duck of Bedford's Zoological Exploration in Eastern Asia. I. List of Mammals obtained by Mr. M. P. Anderson in Japan. Proc. Soc. London, pp 331 - 362 ．
- 豊永哲史・浜田静彦 (1989): 笹ヶ峰自然環境保全地域の哺乳類．笹ヶ峰自然環境保全地域調査報告書．環境庁自然保護局．pp 85 - 95 ．
- 山本栄治 (1982): ジネズミより採集したシナアシブトダニ．採集と飼育，44 (5) . 264p ．
- 山本栄治 (1986): 小田町の哺乳動物 (1) ．愛媛の自然，28 (2) . pp 9 - 10 ．
- 山本栄治・土居雅恵 (2000): 小田深山およびその周辺の哺乳類．小田深山の自然 I ，小田町．pp 293 - 377 ．
- 山本栄治 (2004a): 家屋内のゴキブリ粘着トラップに掛かったジネズミ．しこくこげら，2 ．p9 ．
- 山本栄治 (2004b): コウベモグラのロードキル例．しこくこげら，2 ．p10 ．
- 山本栄治 (2004c): コウベモグラの負傷個体例．しこくこげら，2 ．p11 ．
- 山本栄治 (2004d): 枝葉くず置き場にいたコウベモグラの幼獣．しこくこげら，2 ．p12 ．
- 財団法人リバーフロント整備センター (1997): 平成7年度 河川水辺の国勢調査年鑑．鳥類調査，両生類，爬虫類，哺乳類調査，陸上昆虫等調査編．山海堂．77p ．
- 財団法人リバーフロント整備センター (1999): 平成9年度 河川水辺の国勢調査年鑑．鳥類調査，両生類，爬虫類，哺乳類調査，陸上昆虫等調査編．山海堂．91p ．